

(様式第1号)

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： 一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地： 長野県上田市下之条 804-39
評価実施期間：令和 3年10月25日から令和 4年1月27日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 16023 B18051 B18052	

2 福祉サービス事業者情報（令和3年11月現在）

事業所名：社会福祉法人 白田保育園 (施設名) 白田保育園	種別： 保育所
代表者氏名： 理事長 田原 彰人 (管理者氏名) 園長 仲沢 ひろみ	定員（利用人数）： 80（77）名
設置主体：社会福祉法人 白田保育園 経営主体：社会福祉法人 白田保育園	開設（指定）年月日： 昭和26年4月1日
所在地：〒384-0301 長野県佐久市白田 2126-8	
電話番号：0267-82-2332	FAX 番号：0267-82-2332
電子メールアドレス：usuho@if-n.ne.jp	
ホームページアドレス：http://www.usuho.com/	
職員数	常勤職員： 11 名 非常勤職員 12 名
専門職員	保育士 16 名 事務員 2 名
	栄養士 1 名 看護師 1 名
	調理師 1 名
施設・設備 の概要	(居室数) 9室 (設備等)

3 理念・基本方針

〈理念〉和を大切に、子ども一人一人が生き生きと集団生活を送り、保護者に寄り添い地域に愛される保育園を目指す
〈基本方針〉子どもの心と身体を元気にする保育

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

白田地区は、佐久市の南部一帯を占める地域です。2005年に佐久市と合併する前は「白田町」として独立した自治体でした。

地区内には日本一のパラボラアンテナを持つ白田宇宙空間観測所や日本では2つしかない五稜郭跡があり、歴史や宇宙を感じることができる町です。

この白田町に65年前、南佐久地域で初めて創設された保育園が白田保育園です。和を大切に、家庭と園が共に仲よく子どもを育てること、自然の中で自主性を重んじることを理念として自由保育をすすめてきました。

当時は子どもたちの遊び場も田畑に囲まれていましたが、白田バイパスの建設や合併

などによって生活環境が変わってきました。そのような中、臼田保育園では、時代に即しながらも子どもたちが自然に触れ、心身ともに健康に「生きる力」が育つことを願って様々な保育を実践しています。

○「子どもの心と身体を元気にする保育」を園の方針として掲げ、思いやりのある子ども、たくさん遊べる子どもを目指して、丈夫な体づくりや意欲を育てる保育をしています。

・和太鼓を保育に取り入れ、伝統文化に触れるとともに、正しい姿勢や挨拶の習慣を身につけています。また、友だちと音を合わせる、心を合わせるという経験は集中力や協調性、向上心や表現力を育てています。

・絵本の読み聞かせを大切に、園と家庭でたくさんの絵本と出会うきっかけがつけられるよう取り組んでいます。読み聞かせを通して絵本の世界を味わい、想像力や聞く力を育てています。

・柳沢運動プログラムや年間マラソンを通して、目的をもって取り組む楽しさや達成感、友だちと励まし合う大切さを日々味わいながら身体能力も向上していきます。

・「信州やまほいく」の認定園として、散歩に出かけたり花や野菜を育てたり、小動物を飼育したりしています。四季の自然を感じながら五感を働かせて好奇心を育み、想像力や自己肯定感を高めています。また、自然の中での遊びは身体が鍛えられ、たくましさも身につけています。

○保護者のニーズに合わせた受け入れや、地域の子育て支援を積極的にしています。

・様々な保護者のニーズにあわせて、長時間保育や一時預かり保育、未就園児親子へのイベント開催や園開放、子育て相談にも応じています。また育児の情報提供も積極的に行っています。

・家庭との連携を密にして、それぞれの家庭に寄り添いながら地域から信頼される園運営を目指しています。

○地域に密着した保育園として、地元との連携や行事への参加を行っています。

・佐久平総合技術高校とさつまいもの収穫を通じた交流をしています。

・定期的に佐久総合病院老人保健施設・さくら苑などの施設を訪問し地域のお年寄りとの交流を楽しんでいます。親しみの気持ちを感じ、優しい言葉をかけていただくことで園児の心も温まります。

・市民まつり「臼田よいやさ」、「まちじゅう音楽祭」に参加し太鼓やよさこいソーランの踊りを披露することで自信や満足感を味わい、地域の行事にも親しんでいます。

・勤労感謝の日に合わせて地域の森林管理署や消防署等を訪問し、いろいろな仕事に関心を持ったり感謝の気持ちを持ったりする経験をしています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回（ 年度）
---------------	----------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む）

◇特に良いと思う点

【環境の工夫によって保育が展開され、子どもたちの自主性や意欲を育てています】

創設者の理念や願いが受け継がれ、温かく家庭的な保育がされています。

理事長も園に常駐し、園長支援の他、園内外の修理、子どもとの交流・見守りなど縁の下の力持的な立場で保育園運営を支えていました。

園舎内は保育室や廊下、階段に保育士の様々な工夫が見られ、未満児クラスの手作り玩具も一人ひとりの発達や個人差に合わせた工夫が多く見られました。3歳以上児の各保育室もコーナーあそびや制作活動が自由に自発的に、また子どもの創造性が育まれるような環境となっており、廊下の隅々まで廃材等を利用した楽しくワクワク感が募る工夫がされていました。小動物の飼育を積極的に取り入れるなど、各クラス担任の個性も発揮された、温かい環境となっていました。

クラスの枠を超えて活動する機会も多く取り入れ、異年齢交流を通して優しい気持ちや思いやり、憧れの気持ちが育っています。

【専門性のある職員配置】

特色ある取り組みとして柳沢運動プログラムを取り入れていますが、職員の中から2名が専門知識を学び、園内職員に広げながらより積極的な指導が行われていました。園舎内には階段などに手形を貼り、日常生活の中でも自然な形で体を使う習慣が身につく工夫がありました。

また、障がいを持つ子どもさんの受け入れもしています。保護者からはきめ細かな対応に感謝するコメントも寄せられ、安心して保育園を利用されていました。園長は障がい児保育の専門知識を更に高めたいと願い、研修や講習受講を計画しています。

職員構成も、看護師や栄養士を園専属で配置しています。各専門知識を生かして、例えばアレルギー食の提供には最大の配慮を工夫し誤食事故を防ぐ取り組みが行われています。

今回、第三者評価を初めて受審され、理事長はじめ園長、職員は自己評価を行いながら保育の質の向上に向けより専門性を高めていくことが期待できます。

【保護者支援や地域との連携を大切にしています】

保護者の考えや意見をくみ取りやすいよう、理事長、園長が中心となりアンケート等を行い分析や解決を行っています。また、研修等で担任が不在になったりしても不安にならないよう、子どもや保護者が見やすい場所（送迎時の玄関正面）にボードと写真入りの職員配置図を掲げて、その日の体制が一目でわかるようにしています。調理担当職員や事務担当を含め、どの職員も子どもたちを把握しており、登降園時に声をかけたり様子を伝えたりしています。保護者も園に協力的であり、園に信頼を寄せていることが保護者アンケートのコメント等からも確認できました。

地域との交流や地元行事にも積極的に参加する他、保育士が交代で、地元小学校でお話を語り月に1～2回行っていることは、園にとっても学校にとっても大変有効で温かい時間を共有できていると思います。保育園が読み聞かせを大切にしていることもわかります。

◇特に改善する必要があると思う点

【人事管理等について】

理念等の理解の周知には努めていますが、法人の基本方針に基づいた具体的な職員像の明記が望まれます。その上で、職員一人ひとりの目標管理の仕組みを作るとともに、更なるスキル獲得のための機会の提供などが行われると人材育成や職員のモチベーションも高まると期待できます。

【周知事項の徹底について】

勤務形態や職員の入れ替わり等により園内の連絡事項が届きにくかったりしているようです。また、様々な事案に対する園の対応にもばらつきがないよう、必要なルールを精査し、マニュアル化を進めることが期待されます。（各記録の既読確認、実習生受け入れ、苦情解決、危機管理など）

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価・・・(別添 1)
- ・ 内容評価・・・(別添 2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添 3－1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）